



大あっぱれ快走の要因は「自律」

校長 田邊 雅也

第98回箱根駅伝。復路を大会新記録、往路・復路合計も大会新記録で、2年ぶり6度目の総合優勝を果たした青山学院大学の原晋監督が選手たちを右のように称えました。成長メソッドで最も大切にしているのは「自律」でした。今の自分に足りないものは何なのか、目標とするものは何なのか、学生自らが考えて実行した結果が優勝だったとのことでした。だから青山学院大学陸上競技部はここまで強いチームになれた、とおっしゃっていました。

箱根駅伝ゴール直後の原晋監督のインタビュー

大あっぱれ快走ですね。学生たちにあっぱれ、ほめてあげたいなと思います。過去最強軍団と称しておりました。それが口だけでなく現実となりまして、改めて学生たちの素晴らしさを感じました。「青山メソッド」がありますから、そのメソッドの通りに自立してしっかり取り組んでいけば伸びるんです。でも、それだけではなくて**自分で律する、その「自律」**。自ら考え、行動して課題に向き合って前へ進む姿勢、そういったものが青山学院にはできあがったのかなと感じます。ありがとうございます。

「自律」とは自分の判断と強い信念で進むこと

「じりつ」には「自立」と「自律」のふたつがあります。人間形成に欠かせないもので、自立と自律を両輪として身に付けると、自己肯定感や生きる力を育み、明るい未来を拓く人財となるのは言うまでもありません。

●「自立」

助けや支援を受けずに自分の力で物事をやったり自己管理をしたりする行動

持ち物の準備、着替え、机の整頓、宿題の提出を一人で行うこと、親や教師の言うことにきちんと行動すること 等

●「自律」

自分で立てたルールで、自分のことは自分でやっていくこと。内面的な要素が強く、自分自身で判断し、信念をもって進む行動

自分の課題克服のために努力すること、友達がいけないことをしていたらやめようと判断し、助けたりすること 等

子供のため、と大人が身の回りのことをやってあげたり、習い事や学習塾に通わせてやりして道をつくってあげるのも愛情のひとつです。しかし、押しつけになってしまうと、親、先生、指導者の指示に従うことばかりになり、自分の判断で、強い信念をもって進む「自律」には至りません。

子供は「自律した有能な学び手」と捉える

社会の変化は加速度を増し、未来はすでに複雑で予測困難です。自分で判断できず、信念もなく、変化に受け身していると、困難な人生になりかねません。本校も、子供主体の個別最適で協働的な学びに大きくシフトチェンジをしています。授業の多くは、iPadを活用し、自分でやる、自分からやりたい、と夢中で学ぶ子供の姿が見られる授業改善がかなり進んでいます。全ての子供を「自律した有能な学び手」として捉え、自分の力で課題解決をする子供にさらに「自律」が育まれると信じています。一部ではありますが、限定公開のYouTubeで、自律を育む授業実践をご覧ください。

去年は「愛」、そして今年は「律」

箱根駅伝から改めて「自律」について学びました。青山学院大学陸上競技部の選手のような若者が増えると、日本の未来は希望にあふれている、と大勢の方が感じたと思います。本校には「子供は、愛されることよって、さらに輝く」という目指す学校像があります。子供の自律を育むための愛にしないといけません。今年も保護者・地域の皆様からの愛を賜りますようよろしくお願い申し上げます。私の漢字一文字は令和3年は「愛」でしたが、今年は皆様と共に「律」を目指したいと思っています。

今回は、学校だより5月号「子のじりつと親の愛情で輝きを」を深掘りし、「自律」にフォーカスした内容で、一部重複しています。